

(様式第2号)

福祉サービス第三者評価結果報告書

①第三者評価機関名

株式会社東京リーガルマインド 岡山支社

②施設・事業所情報

名称：旭川敬老園	種別：介護老人福祉施設	
代表者氏名：藤堂 博之	定員（利用人数）：120名（内ショート10名）	
所在地：岡山県岡山市北区祇園866		
TEL：086-275-4349	ホームページ： http://www.asahigawasou.or.jp/cgi-bin/service/index.cgi?c=zoom&pk=47	
【施設・事業所の概要】		
開設年月日：1968年5月1日		
経営法人・設置主体（法人名等）：社会福祉法人旭川荘		
職員数	常勤職員：73名	非常勤職員：43名
専門職員	(専門職の名称)	・作業療法士 2名
	・医師 1名	・介護員 85名
	・看護師 6名	・管理栄養士 1名
施設・設備 の概要	(居室数)	(設備等)
	120床	

③理念・基本方針

基本理念

入居者一人ひとりの「生活」を支援します。

基本方針

○入居者一人ひとりのその人らしい「生活」の実現に向け、個室ユニットケアの特徴を生かし、個別支援の充実に努めます。

○介護の実施に当たっては、利用者その人の「介護予防」や「悪化の防止」を図る観点から、ひと手間を惜しまず、日々工夫しつつ、「生活」の充実を目指した介護に取り組んでいきます。

○最後まで入居者本人、家族共に安心して「生活」していただけるよう、医療との連携の下、必要な情報提供に努めるとともに、関係する者で話し合いを行いつつ支援していきます。

④施設・事業所の特徴的な取組

○個別の介護サービスを提供「ユニットケア」

家庭的な雰囲気の中で、入居者一人ひとりの生き方や個性を尊重し、本人の主体的な「生活」を支援します。全室個室のため、「ご自身の生活空間」と「共有空間」が区別でき、入居者様のプライバシーにも配慮でき、ストレスの軽減にも繋がります。また、いつも同じ職員が対応することで馴染みの関係をつくり、安心した生活が送れるよう努めています。

○ふれあいを深める「クラブ活動」

入居されている方が長い人生で得てこられた経験を発揮していただきながら、入居者同士の関係づくりや、身体機能の低下予防、楽しみのある生活に繋がることを目的としています。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	平成29年12月10日（契約日）～ 平成30年5月7日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	回（平成 年度）

⑥総評

◇特に評価が高い点

<食事>

利用者に美味しい食事を食べて欲しいとの思いで、味付けや食感にもこだわっている。とろみ材を使用した場合、調理員は味見をし、味付けは薄くなっていないか食べやすいかを確認している。

<排泄支援>

利用者一人ひとりに合わせた排泄支援に努めている。脊髄損傷の利用者が足を伸ばした状態では自力で排泄が出来ないため、畳を敷いた真ん中に便器を設置したトイレを作っている。

<作業療法>

入所した利用者の身体機能を作業療法士が確認し、利用者の負担にならないような介助方法を職員に指導している。利用者は職員からスムーズに動ける介助を受けている。

<看取り>

入所前の見学时にも重度化した場合の対応について家族に伝えている。入所者が重度化した場合、家族等の希望により看取りをしている。亡くなった後、アンケートを家族に頼んでいるが、ここで最期を迎えることが出来たことに対する感謝の言葉がつつられている。

<サービス実施計画>

ケアマネジャーが主となり、介護、看護、作業療法、管理栄養士等さまざまな職種の職員たちが、それぞれの知識を持ちより利用者に適した計画を策定している。

◇改善が求められる点

<管理者の責任>

施設長に就任しまもなく1年が経つ。事業所へ異動になった1年目は園長代理として施設内の巡回に努めていたが、施設長に就任し外部とのやりとりに追われなかなか巡回が出来ていない。以前のように巡回する時間を作って欲しい。

<人材確保>

求人専門雑誌や新聞折込等、幅広く宣伝を行っているが、なかなか応募者が現れない。人手不足等で方針どおりの人員体制が困難ではあるが、できる限り計画的な人事管理が行われることに期待を寄せる。

<食事支援>

食事は温かい状態で提供に努めているが、食事介助中、他の利用者から呼ばれて席を立たなければならぬ状況になる事も多く、せっかくの食事が冷めてしまっている。手間かもしれないが、再度レンジ等で温め直す工夫をして欲しい。

<コミュニケーション>

入浴支援の際、一対一での会話を大切にしているが、日ごろは介助に追われて利用者とコミュニケーションを図れていないように感じた。

<口腔ケア>

歯科衛生士により個々に合った支援の指導が行われているが、具体的な支援実施が職員により個人差が見られる。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

栄養士やケアマネ等の専門職の評価が高かったことは喜ばしいですが、介護現場での利用者対応が業務をこなしているような状態という口頭での評価結果、また、理屈では分かっているものの、実践に結びついていないところもあるという報告書での評価結果、これらについては、特に重要な指摘と考えています。

ユニット内の職員配置は基準を上回っており、また、7人～8人という他施設よりも少ないユニットの利用者定員ですので、ある程度の個別的な対応は可能と考えております。にもかかわらず、今回のような評価となった原因は、「次はこの業務をしなくては」という、業務優先でマンネリ化した職員の意識にあるように感じます。

介護職員がもう一度、各利用者の24時間シートや個別支援計画をしっかりと把握して、「一人ひとりを支援する」という理念にもどった介護サービスを行いたいと考えております。

⑧第三者評価結果（別紙）